豚熱発生に備えた危機管理対応について

南丹家畜保健衛生所

○西田寿代　塚本智子

【はじめに】平成30年9月に国内で発生した豚熱は、養豚場での発生と野生いのししの感染が拡大。当所は農家指導と監視の強化、府内最大規模農場（本場、分場の2農場で約8,000頭飼養）での発生を想定した準備、関係機関との連携強化、ワクチン接種を実施。【内容】①情報発信（81回）、緊急巡回（延べ83戸）、飼養衛生管理基準の遵守指導（延べ80戸）等の農家指導と監視を強化。②机上訓練（通報から防疫措置完了までの家畜防疫員の行動、各班の作業手順書の整備、必要資機材の算出、農場内の作業動線等）と殺処分訓練（異なるステージの殺処分方法の検討）を実施。③現地対策本部体制強化のためマニュアルの整備、課題の洗い出しと解決に向けた各班の打合せや現地調査を実施（17回）。④本年1月中に管内全頭のワクチン接種を終了（18戸7,161頭、従事者103人）。2月に実施した抗体付与状況調査（7戸215頭、従事者26人）の陽性率は96%で十分な免疫付与を確認。【PCR陽性事例】病性鑑定でPCR陽性事例があり、ワクチン株と判明するまでの間、野外株を想定した防疫対応を行い、実践での円滑な対応を確認。【まとめ】家畜防疫員が府内最大規模農場での発生を想定した実効性のある防疫措置のイメージを共有。関係機関の役割分担を明確化し、精査された課題を綿密な打合わせにより解決。今後も関係機関と連携し、発生予防対策と防疫体制の強化を継続。